

【兵庫】 尼崎総合医療センター (AGMC)



当院の特徴

当院は兵庫県尼崎市（神戸市と大阪市の間）にあります。2015年に新設し、730床で高度急性期及び専門性の高い医療を幅広く行っています。後期研修医も100名以上と若手医師が多く非常に活気があります。

豊富な症例

当科では、ロボットを用いた繊細な手術から、他科との連携で行う腎臓+心房内腫瘍塞栓手術（心臓血管外科）あるいは骨盤内臓全摘除術（消化器外科）などのダイナミックな開放手術に至るまで取り組んでいます。また、良性疾患である結石、前立腺肥大症に対してもレーザーを用いた経尿道的手術も豊富で、特に尿路結石に関しては経尿道的手術（fTUL）だけでなく、ECIRS（Endoscopic combined intra renal surgery）を積極的に行っていることも当院の特徴です。このように手術症例数も多く、後期研修医の先生方も手術に触れる機会に恵まれ、かつ手厚く指導してもらえます。

研修1年間での手術症例数（研修医自ずから行う症例）

TUR-BT	50例 (178例)
TUL+ECIRS	30例 (156例)
HoLEP	15例 (40例)
腹腔鏡下手術	15例 (63例)
膀胱全摘除術	6例 (20例)
その他開腹手術	3例 (10例)
ロボット支援手術*	0例 (68例)

※（ ）泌尿器科全体での症例数

*ロボット手術はCertificate取得までは助手のみ行うことができる

カンファレンスの様子

現在は6人体制で、診療に取り組んでいます。特に、週1回行われる術前カンファレンスでは、我々、若手医師のプレゼンテーション能力を高めることができます。また、このカンファレンスを通じ、より

レベルの高い医療を提供できるように心がけています。

もし、困った症例があれば、この場で先輩の先生方に相談することもあります。



研修プログラム

当院は神戸大学泌尿器科専門研修プログラムの基幹病院となっており、4年間のうち神戸大学病院を含む同関連病院で研修を行うことが可能です。

研修の一例

神戸大学

AGMC

神戸大学関連病院から選択

最後に

私は5年目でAGMCに赴任しておよそ半年が経ちました。平日は忙しいことが多く（手術、IC、翌日の準備など）気づけば日付が変わりそうなこともあります。最初は不安がいっぱいでくじけそうになることもありましたが、当院での泌尿器科医師は団結力が強く、気づけば先輩の先生が手術のICなど仕事を手助けしてくれていることもしばしばです。平日は、忙しい分、休日は当番制になっており、この時ばかりは、病院のことを忘れ、羽を伸ばして旅行や、ゴルフなどを楽しむことができます。このように、忙しい日々が続きますが、経験症例数も多く、どんどん知識・技術が向上していることが実感できます。研修医の先生方もスキルアップのチャンスが大いにある環境だと思いますので、是非、当院で共に働いてみませんか。泌尿器科医師全員心待ちにしています。



【岩手】岩手県立大船渡病院

岩手県立大船渡病院は岩手県南部の太平洋沿岸地域に位置しています。気仙医療圏（大船渡市、陸前高田市、住田町：約65000人）唯一の広域基幹病院および救命救急センターを備えています。私たちは2011年3月11日の東日本大震災を経験し、津波により市街地は甚大な被害を受けました。しかし、震災より6年経過し、徐々に復興が進みつつあり復興の象徴である奇跡の一本松があります。海産物が豊富な風光明媚な場所であり、冬も降雪量は少なく非常に過ごしやすい場所です。私たち泌尿器科は現在常勤医3名+研修医で日々日常業務に励んでいます。岩手の沿岸地区の中核病院として、北は釜石市、西は遠野市、南は宮城県気仙沼市など他の医療圏からの患者も受け入れています。外来は1日平均60～80人で、前立腺肥大症などの排尿障害から前立腺癌、腎癌などの悪性腫瘍などの診察を行っています。手術は週に3日程度で行い、週に1回は根絶的腎摘除術、恥骨後式根絶的前立腺摘除術、膀胱全摘除術などを行っています。

当院のPRポイント

①地域完結型治療：岩手県は本州で最も面積が大きい県であり、大船渡市から中心部までは約120km、車で2時間かかるため中心部まで通うことが難しいのが現状です。そのため地域で完結してほしい希望が多く、当院で経験できる症例数は非常に多いと考えています。氏家科長は長年地域医療に従事している大ベテランで今なお現役で毎週執刀しています。その手術技術は県内随一であり、開腹手術も多く執刀しています。恥骨後式根絶的前立腺摘除術は近年のロボット手術により経験できる機会が減少しているため若手医師にとっては貴重な病院です。

当院は地域の状況に加え、氏家科長の手術技術の高さにより当院での手術を希望される患者が多く、出血量も少なく患者の満足度も高く維持できています。また今年度より岩手医科大学小原教授をお呼びして体腔鏡下腎（尿管）摘除術も開始いたしました。体腔鏡下手術は開腹術と比較し患者への負担が少ない治療であり、沿岸地域で行える施設は少ないため当院は貴重な施設です。

②総合的治療：岩手県全体として泌尿器科が腎臓内科、透析科の職務を兼務している施設が多く、当院も慢性腎臓病から末期腎不全に対する透析患者の管理も行っています。現在当院の透析ベッドは15床で維持透析と緊急透析に対応しています。そのため血液透析のための内シャント造設術、腹膜透析のためのカテーテル留置術も泌尿器科で行います。慢

性腎臓病の管理から透析治療という腎臓内科、透析領域の知識を泌尿器科と並行して一元的に学ぶことができます。氏家科長が透析専門医・指導医を取得しており、当院は日本透析医学会教育関連施設に岩手県沿岸地域では唯一指定されています。

③新技術の導入：当院では2016年春よりMRI-TRUS fusion biopsyを採用しています。本生検法は、生検前に前立腺MRIを撮影・評価した上で、MRI画像と経直腸エコー像を同期する方法であり、生検の精度向上が期待されます。これは日本国内でも限られた施設でしか経験出来ない生検法で当院でも良好な成績を得ております。本生検法は近年の泌尿器科領域に置いて非常に関心の高い領域であり、日本泌尿器科学会総会等の全国学会でも多数発表を行っております。

④教育環境の充実：当科研修中は尿路感染症患者の入院治療、癌末期患者に対する緩和治療、新患対応（結石、血尿、尿路感染症）等、TURBTや陰嚢水腫、内シャント手術等上級医指導のもと積極的に経験させる環境づくりを心がけています。大船渡の穏やかな地域性からストレスが少なく仕事ができる環境を提供でき、地域医療から高い水準の医療を経験できる事など当院での研修のメリットは多くあります。

現在周辺道路が整備され今後中心部からのアクセスも格段に便利となる予定です。また今年は節分に外来で恵方巻を食べました。外来私たちと一緒に岩手県大船渡病院で泌尿器科に加え透析治療、地域医療に従事してみませんか。





【沖縄】 沖縄徳洲会南部徳洲会病院

沖縄中南部および宮古八重山、奄美離島・子育て支援 泌尿器科専門研修プログラム

本プログラムの特徴は以下の3点に集約されます。

- #1 泌尿器科救急疾患
- #2 離島における専門医療(泌尿器疾患)の提供
- #3 家庭を大事にすることも可能である。

本プログラムでは泌尿器科救急疾患を数多く経験することが可能です。当院は救急疾患に24時間対応が可能であり、救急医療基幹病院のひとつです。それに伴い泌尿器科救急疾患、尿管結石に伴う閉塞性腎盂腎炎、精巣捻転、精巣腫瘍、尿道損傷、腎損傷、気腫性腎盂腎炎(膿腎症)等緊急もしくは可及的速やかな外科手術が必要とされる疾患から、日常的な尿管結石、尿閉等まで初診時より診療に主治医として参加することが可能です。

2番目に離島医療があります。離島医療から日本の医療が見れる。離島医療を経験することにより、泌尿器科がいかに住民に必要とされているかを実感することができます。専門医(専門知識・専門技術を有する)であることが患者から求められ、かつ感謝もされます。

本プログラムには離島医療施設が泌尿器科指導医の常勤している施設(宮古島)、泌尿器科指導医が非常勤である



施設(石垣島、沖永良部島、与論島)ともに揃えています。離島医療を経験することにより自分が医師であることの原点に立ち返ることができます。

沖縄中南部宮古八重山・奄美離島子育て支援泌尿器科研修プログラム参加施設

① グループA病院	② グループB病院	③ グループC病院
日本泌尿器科学会が定める標準的手術が80件以上の病院	日本泌尿器科学会が定める標準的手術が80件未満の病院	日本泌尿器科学会指導医が在籍していない病院(僻地・離島病院)
中部徳洲会病院	沖縄協同病院	石垣島徳洲会病院
豊見城中央病院	北上中央病院	与論徳洲会病院
	宮古島徳洲会病院	沖永良部徳洲会病院

3番目に子育て支援・男女共同参画を目指しています。小生も6歳の女兒を育てる一児の父です(2017年現在)。妻が病気のため当院の保育施設を利用して娘を育てることができました。同経験を活かし、泌尿器科を目指しているにも関わらず、育児のため泌尿器科を断念せざる負えないような若手医師(小生は若手とは言い難いですが)があらわれないように、一人でも多くの泌尿器科専門医が育つように最善の取り組みをさせていただきます。

その他一般的泌尿器疾患の診療および学会発表等は、沖縄協同病院、北上中央病院(サザンナイトラボラトリー)、豊見城中央病院、中部徳洲会病院等と協力して行く予定です。詳細はプログラムの手術件数・学会紙上発表等を参照してください。

詳しくは、

https://www.nantoku.org/recruit/senior_resident.php

【石川】金沢医科大学 泌尿器科学講座



金沢医科大学は能登半島の基部に位置します。本学は1973年(昭和48年)に開学し、金沢医科大学病院は1974年(昭和49年)に開院、診療体制としては37の診療科と集学的医療部、835床の病床数、1800名を超える医療スタッフから成る特定機能病院です。

その中で、当講座は1973年(昭和48年)に津川龍三初代教授により創設され、1997年(平成9年)に第2代鈴木孝治教授に引き継ぎ、2013年(平成25年)から現在の宮澤克人教授が就任しました。現在、医局員は10名で、そのうち3名が女性です。2018年には2名の入局が内定しています。

講座の臨床的特色として腎移植を初代の津川龍三名誉教授から、尿路結石症と上皮小体の診療を二代目の鈴木孝治名誉教授から受け継いでおります。宮澤は前立腺癌治療として、2007年3月から(当時、准教授)密封小線源療法を、2015年5月から『ダヴィンチ Xi®』を導入しロボット支援手術を開始しております。

研究面ではUrolithiasis誌のAssociate Editorおよび国際尿路結石症学会運営委員である宮澤克人教授の指導の下、現在2名の大学院生が尿路結石の分野で実験を行っております。特に尿路結石に対する結石関連高蛋白質の分析からDNAマイクロアレイやGWASにいたる最先端の技術を駆使して結石の発生と再発予防の研究を行い、国内外から高い評価を受けています。

腎移植に関しては田中達朗教授をチームリーダーとし、生体腎移植251件、献腎移植術56件の実績を持ちます。北陸の腎移植をリードする立場にあり、急性拒絶反応の早期診断の臨床的研究、献腎移植の腎保存に関する基礎的な研究を行っています。

尿路結石治療では早くから体外衝撃波結石碎石術(ESWL)を導入し症例数は6000例を超え、内視鏡手術である経尿道的尿管結石碎石術(TUL)や経皮的腎結石碎石術(PNL)も積極的に行っています。また、腎癌、膀胱癌、前立腺癌などの悪性疾患に対する外科的治療、女性泌尿器科疾患、前立腺肥大症による排尿機能障害に対する内視鏡手術にも積極的に取り組んでいます。研修医の先生にはこれらの手術に積極的に参加してもらい、チームの一員としてともに充実した毎日を過ごしてもらっています。



写真) 内視鏡検査をトレーニング中の研修医

毎週の症例検討会に加え、1か月に1回の腎臓内科・多職種との移植カンファレンス、2か月に1回に放射線科および病理学部の3

科合同カンファレンスを主催しており研修医の先生たちにも活発なディスカッションに参加していただいております。

また、当講座は主に能登地方と金沢市内の病院やクリニックと密に協力・連携体制をとっております。地方の病院からの紹介には最新の充実した医療を提供できるよう日々努力しております。主な関連施設は以下のとおりです(五十音順)。

- ・浅ノ川総合病院(病床数500)
- ・穴水総合病院(病床数177)
- ・宇出津総合病院(病床数120)
- ・金沢医科大学氷見市民病院(病床数250)
- ・恵寿総合病院(病床数426)
- ・済生会金沢病院(病床数260)
- ・南砺中央病院(病床数190)
- ・能登総合病院(病床数586)
- ・長谷川病院(病床数40)
- ・福井赤十字病院(病床数190)
- ・やわたメディカルセンター(病床数227)

以上の施設には専門研修プログラム参加施設もありローテートは可能です。希望の先生は声をかけていただければ、十分検討させていただきます。

このように当講座ではアクティブな臨床経験、研究が可能です。それに加え、和気あいあいとした医局の雰囲気も魅力と考えています。代表的なのが生体腎移植などのスタッフの多数が参加する手術が終わった後の焼き肉大会です(写真)。当直の先生には申し訳ないと思いつつ、にぎやかに食べたり飲んだりして親交を深めています。臨床面・研究面ではつらいこと、しんどいこともあるかもしれませんが、みんなで笑って楽しく過ごせるのも当講座の特色です。研修医の皆様、医局員一同、お待ちしておりますので、ぜひ一緒に研修しましょう。



金沢医科大学 泌尿器科 近沢 逸平
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学 泌尿器科学
TEL : 076-218-8145
FAX : 076-286-5516
E-mail : i-chika@kanazawa-med.ac.jp

【神奈川】北里大学

当泌尿器科教室は1970年(昭和45年)に発足、神奈川県北の政令指定都市相模原市に位置し、人口約80万人の相模原市民のみならず、周囲の東京都町田市、厚木市、海老名市、座間市、大和市、八王子市を併せると人口250万人以上の診療圏を担っています。また低侵襲治療や腎移植などにおいては上記診療圏外からも多くの症例が集まり、全国でも有数の泌尿器科疾患の症例を経験できる施設となっています。また、当院は比較的交通が至便でありながら、周辺には自然が残る良い環境の中で研修生活をおこなうことができます。2014年5月に大学に新病院が開院、2017年9月には臨床教育研究等(通称IPE棟)が竣工し研修医、病棟医のデスクや研修スペースが確保され新しい病院とIPE棟により充実した研修がおくれるように環境が整っています。



当教室は開設当初より、内視鏡手術を中心とした低侵襲治療を積極的に取り入れてきました。経尿道的手術に始まり、腹腔鏡下手術やロボット支援手術が治療の中心となっております。これらの低侵襲治療を、より専門的に行っていくため、大学病院と関連施設とで、取り扱う疾患に特色を持たせ、大学病院では、『泌尿器科腫瘍』、『腎移植・腎代替治療』、『小児泌尿器科』、『排尿障害』の4つを診療重点領域とし、それぞれに低侵襲治療を展開させております。また研修連携施設では施設の特色を活かした疾患(結石治療や前立腺肥大症治療)を集中的に研修できるように専門研修施設群を構成しています。専攻医1年目(医師3年目)は泌尿器科診療の基本を習得すべく大学病院研修を予定しております。専攻医2年目(医師4年目)は、大学病院に準ずる関連施設に1年間出向して頂き、地域に特化した医療を学んで頂きます。専攻医3年目(医師5年目)は、大学病院へ戻って研修して頂いた後、関連病院に出向して頂き、専門性の高い治療を研修して頂きます。その後、専攻医4年目(医師6年目)に大学病院でのチーフレジデントを経験し、研修プログラムがひと通り終了となりますが、近年の医療技術の急速な発達により、この期間だけでは習得できない技術があることは否定できません。そのため、チーフレジデント終了後に『腎移植・腎代替治療教育プログラム』と『腹腔鏡下手術強化プログラム』に在籍して頂き、集中的に修練して頂きます。

大学病院での診療の特色を紹介します。

【泌尿器科腫瘍】泌尿器科腫瘍では、腎細胞癌に対する腹腔鏡下手術、腎部分切除に対するロボット支援手術、尿路上皮癌に対する腹腔鏡下手術と経尿道的手術、前立腺癌に対するロボット支援手術と組織内放射線照射があげられます。当科では1998年頃より積極的に低侵襲治療に取り組んでおり特に泌尿器科腫瘍に対する腹腔内手術は年間150-200例おこなっています。

【腎移植・腎代替治療】当科では開院当初から腎代替医療に積

極的に外科系診療科として腎臓内科と協力し血液透析におけるバスキュラーアクセス手術、腹膜透析におけるカテーテル留置、管理、腎移植術を積極的におこなってまいりました。腎移植は1972年に第一例目の生体腎移植をおこない、これまでに500例をこえる移植手術を施行しております。腎代替療法である血液透析・腹膜透析・腎移植の3つ全てに関わることで保存期の患者から代替療法選択、選択後の治療全てに携わることが可能で総合的に腎不全診療をおこなうことが可能なのも当科の特徴と言えます。

【小児泌尿器科】当科では停留精巣、尿道下裂、水腎症、膀胱尿管逆流症などの先天奇形から小児特有の尿路結石などの代謝性疾患、また中間尿失禁、夜尿などのQOL疾患まで幅広い疾患を扱います。当科は様々な先天奇形に対する外科治療を積極的に行っており、特に尿路奇形に対しては標準的な開腹手術のほか腹腔鏡手術を多く施行しているのが特徴です。小児体内での鏡視下手術は、難易度は高いが手術侵襲度は低いため、患児に対する利点は多いと考えています。

【排尿障害】排尿障害では、ホルミウムレーザー前立腺核出術を導入し、人口括約筋植え込み術も積極的に行っております。大学病院では、これらの治療を集中して研修できる特徴があります。



研究面では学年毎のプログラムを予定しております。日本泌尿器科学会東部総会、日本泌尿器科学会総会、さらに日本泌尿器内視鏡学会に於いて、症例や臨床統計の発表をして頂き、発表に準じた論文を投稿して頂きます。チーフレジデント終了後以降は、基礎研究を行って頂く時間も用意しております。当院での専攻医プログラムを通して、泌尿器科専攻医が検査手技や診断、手術手技および周術期管理を網羅的に習得し、さらには他職種との関わりが必須である緩和医療や腎移植治療を通して総合的にバランスの取れた泌尿器科専門医になることを目標としています。また、後期研修プログラムを終了したのち、さらなる育成を目的とした助教プログラムを展開しております。大学院や留学、関連病院での研鑽を含めた研修制度により、泌尿器科指導医や各種認定医、博士号取得、さらには将来の連携病院指導者や大学教員の育成を行っております。



【北海道】市立釧路総合病院

たぶん北海道は

皆さんの想像よりもはるかに広い。その東端に位置する釧路市は、近隣に3つの国立公園（釧路湿原・阿寒摩周・知床）を有しており、身近な大自然の懷で観光・温泉めぐり・アウトドアなどの楽しみに事欠きません。また豊かな海産物・農産物に恵まれた味の街でもあります。特筆すべきは夏の涼しさと、海流の影響のために25℃を超えることは稀で、真夏でもクーラーが不要です。最近では、涼しさを求めて長期滞在する人も増え、IT関連のクリエイターが本拠を移すケースも。釧路というと霧のイメージが強いのですが、秋以降は晴天が続き、冬はそれなりに気温が下がるものの、降雪量は少なく過ごしやすい街です（北海道基準ですが）。



飛翔する丹頂鶴



夕日に染まる釧路湿原

市立釧路総合病院は、このような道東の広大な医療圏を担っており、地域センター病院・地域がん診療連携拠点病院・周産期母子センター・へき地医療拠点病院・救命救急センター・臨床研修指定病院等に指定され、ICU、NICUを含む643床を有し、ドクターヘリも頻繁に稼働するなか、「地域完結型医療を目指して」「都会じゃないから救えないとは言わせない」をモットーに、19診療科・84名の医師と7名の研修医が日夜診療にあたっています。病院ホームページ：www.kushiro-cghp.jp/ をご参照ください。

釧路から札幌までは直線距離で330km（東京～名古屋間に相当）、出張医の主な移動手段は飛行機になります。患者も地元以外での治療選択は厳しいものがありますので、難しい症例に対しても自らの力で立ち向かう強い覚悟が必要です。しかしながら、豊富な症例・貴重な症例を経験できますし、「病院ずれしていない」患者と接することは、医師という職業の原点に思い至る、得がたい体験です。

当院は北海道大学泌尿器科の主要な関連施設の一つです。泌尿器科構成メンバーは現在6名（うち指導医4名）、出身は北海道大・札幌医大・旭川医大・弘前大とさまざまですが、世代を越えて活発に意見交換しながら診療にあたっています。それぞれの得意分野は、腎移植・血管外科・透析・ロボット支援を含む鏡視下手術・癌の治療・神経因性膀胱・尿路結石・女性泌尿器科・小児泌尿器科・男性機能、など、ほぼ泌尿器科全域にわたる内容を網羅しています。若い先生にも主体的に治療に参加してもら

いますし、意欲があれば、他から「えっ」と驚かれるような手術もどんどん執刀してもらっています。充実した研修を希望する方の期待を裏切ることはないでしょう。毎朝夕の回診のほか、手術&レントゲンカンファレンス、透析カンファレンス、重大症例のカンファレンスなども活発です。また地域全体として、年3回の「釧路地区泌尿器科研究会」を開催し、症例や研究の発表・論文抄読などを行っています。学会発表・論文も多く、ここ2年連続で海外での発表も行なっております。

この1年の診療概要は、

- ・平均入院患者数38名/日・外来患者数138名/日（透析患者含む）
- ・血液透析118名・腹膜透析27名
- ・手術室手術数643件、尿管ステント留置51件、ESWL 231件

手術の内訳は、

- 腎移植 5（生体4、献腎1）、●副腎摘出術7（鏡視下6・開放1）、●腎摘出術29（鏡視下28、開放1）、●腎尿管全摘術7（鏡視下6・開放1）、●腎部分切除術4、●腎盂形成術2、●前立腺全摘術45（ロボット支援下41、開放手術4）、●膀胱全摘術11、●TURBT 140、●TURP 20、●前立腺生検110、●高位精巣摘出術10、●TUUL 12、●外傷後の尿道形成術2、●陰茎部分切除術2、●陰囊壊死性筋膜炎デブリードマン2、●シャント関連手術96、CAPD関連手術31、●TVM 22、尿道スリング6、●膀胱水圧拡張6、●小児手術32（陰囊内疾患20、尿道下裂形成5、腎盂形成2、逆流防止術2など）

というように、単一施設としてはなかなか経験できないような、大変バラエティーに富んだ内容です。

病棟回診のたびに、南に太平洋の水平線、北に阿寒・知床連山の山稜、眼下には春採湖を眺め、また遮る物のない広い空を仰ぎ見えています。一緒に学びながら、泌尿器科学の発展に思いを馳せてみませんか？



2017メンバー 左から

村雲雅志・山田修平・森田研・谷口成実・青柳俊紀・守田卓人

【岡山】倉敷成人病センター 泌尿器科



当科では、1980年の開設以来、一貫して「QOLを重視した医療」を追求し、診療を行っています。

倉敷成人病センターは、昭和47年に財団法人倉敷成人病センターとして設立されました。開院以来2度にわたる増改築工事を行ったため複雑な構造となっていました。隣接地取得を契機に全面的に建て替えを行うこととなり、平成16年現在の病院棟完成にあわせて病棟も電子カルテ運用となりました。また、平成18年1月にクリニック棟が完成し、稼動しています。また経営母体の財団法人には他にいくつかの関連医療施設があります。国外には昭和58年のシンガポールをはじめ、平成3年にはロンドン、平成15年には上海に、在留邦人を対象としたクリニックを設立しております。国内では平成6年に倉敷成人病健診センターが分離独立したほか、平成9年には老人保健施設「ライフタウンまび」を開設しました。平成18年1月には外来部門をクリニック棟に合わせて、外来診療に特化した倉敷成人病クリニックとして分離しました。そのほか平成16年度より管理型の臨床研修指定病院となっています。当院の最大の特徴は、日本で数少ないシャワートイレ付の全床個室という点であり、患者のプライバシー尊重、院内感染の防止に寄与しています。当院泌尿器科は、様々な泌尿器科疾患に対応できる体制を整えており、日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本性機能学会専門医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本レーザー医学会のレーザー専門医など多くの資格を取得した計6人体制で診療を行っています。

泌尿器がん治療においては、平成25年に中四国の民間病院では初めて手術支援ロボットダヴィンチSiを導入し、平成28年度末までに200例を超えるロボット支援腹腔鏡下手術を前立腺がん、小径腎がんに対して行っています。腎盂・尿管がんや比較的大きな腎がんに対しても体腔鏡下による低侵襲手術を行っています。当院におけるロボット支援手術は、サージョンコンソールが2台ある、デュアルコンソールシステムを採用しています。これによって、術者2名が同じ画像を見ながら手術を行うことが可能になります。ロボットの手を動かすのはどちらの術者でも可能で、術者2人で協力しながら手術を行い、若手医師への指導もできる構成になっています。また、スキルシュミレーターが搭載されているため、若手医師だけでなく、医学生や研修医がリアルタイムで教育を受けられる体制になっています。

尿路結石治療では、体外衝撃波結石破碎術(ESWL)や経皮的碎石術(PNL)、経尿道的碎石術(TUL)などの低侵襲手術を積極的に行っています。難治性結石に対しては、全国に先駆けて

PNLとTULとを同時に行うTUL-assisted PNL (TAP)を始めました。TAPは、PNLとTULの特徴を活かし、より低侵襲かつ高い除石率が可能となり、関連学会での注目を浴びており、その実績も評価され学会賞も数多く受賞しております。このTAPの安全な手術の普及のために、毎年2-3回トレーニングセミナーを開催し、国内各地より多くの先生に参加していただいております。

また、腹圧性尿失禁や骨盤臓器脱(膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤)に対し、ガイネメッシュによる膈壁形成術(TVM)や腹腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)などの治療も積極的に行っています。重症の腹圧性尿失禁に対しては、人工尿道括約筋埋め込み術を行っています。大きな前立腺肥大症に対しては、経尿道的ホルミウム・ヤグレーザー前立腺核出術(HoLEP)を行っています。

このようにホルミウム・ヤグレーザーや手術支援ロボットダヴィンチの早期導入をはじめ、常に最新の医療機器や治療方法を導入し、より安全で低侵襲な最先端の治療法を積極的に取り入れてきました。これらの低侵襲な最先端の治療法により、短期入院による治療法(手術)を提供し、早期の社会復帰ができるように努力しております。

「よい医療は人が創る」という考えで人材育成を重視しており、医員の学習や成長を積極的に支援しています。当院には、医師が主体性をもって成長できる環境が整っています。泌尿器がん治療から内視鏡による結石治療、女性泌尿器領域まで幅広く症例を学ぶことが可能です。学び、修練し、経験を積み、技術を深めていくには最適の施設と思います。今後もさらに業務を拡大して地域医療の充実と安全な医療技術の普及に貢献できればと考えています。

泌尿器科に興味のある学生さんや初期研修医の先生は、是非、見学や研修に来ていただければと思います。



【群馬】群馬大学泌尿器科



医学部の学生、初期研修医の皆さん、ようこそ群馬大学泌尿器科の紹介ページにお越し下さいました。皆さんは自分たちの5年後、10年後はどんな感じなのだろうと想像してみたことはありませんか？

これから、実際の群馬大学泌尿器科若手、中堅医師3人のケースをお示しします。泌尿器科医師としての人生設計のお役に立てば幸いです。

<ケース1>

基礎研究、腎移植、腹腔鏡手術と多彩なサブスペシャリティーを持つ泌尿器科医

42歳 男性、埼玉県出身

24歳で医学部を卒業。29歳で泌尿器科専門医取得。その後、透析認定医、腎移植認定医、がん治療認定医、腹腔鏡技術認定医と確実にスキルアップ。

腎移植を担当するとともに基礎研究も精力的に行い、米国留学を経て、臨床・研究と後進の指導を行う。

ポイント

①泌尿器科は腎不全に関して保存期から末期腎不全・透析までの内科的治療から腎移植といった外科的治療まで、腎不全のトータルマネジメントを行います。②群馬大学泌尿器科はがん治療に関して高いレベルでの標準治療を行うとともに、基礎研究も盛んで、国内・国外留学も奨励しています。

<ケース2>

ますます需要が高まる女性泌尿器科医

34歳 女性、群馬県出身

24歳で医学部を卒業。大学や関連病院で研修し、30歳で泌尿器科専門医取得。現在、一児出産、育児休暇取得後、群馬大学の女性医師支援プログラムを利用して復帰し、育児と両立しながら大学病院で活躍中。

ポイント

①群馬大学泌尿器科では、教育システムが確立されており、県内を中心とした関連病院との連携により2018年度から始まる新しい専門医制度にもスムーズに対応できます。

②群馬大学泌尿器科にはここ8年間で5人の女性医師が入局しました。群馬大学には女性医師支援プログラムや院内保育所といった出産・育児を行う女性医師を支援する体制が整っています。加えて群馬県医師会が行っている保育サポーターバンクという主に子供の預かり保育や送迎も可能な非常に頼れる制度も利用

することができ、育児と仕事の両立を手厚くサポートします。

<ケース3>

日夜手術とマラソンに研鑽を積む泌尿器科医

38歳 男性、埼玉県出身

26歳で医学部を卒業。手術と内科的アプローチの両方ができる泌尿器科に興味をもち、泌尿器科医の道へ。32歳で泌尿器科専門医を取得。腹腔鏡手術に将来性を感じ、腹腔鏡技術認定医を取得。より難易度の高い、腎部分切除術や、ロボット支援手術にも取り組んでいる。また、男性更年期外来も担当している。海外のマラソン大会で異文化との交流を行う。

ポイント

①群馬大学泌尿器科では最近6年間で6人の腹腔鏡技術認定医を輩出しています。

②泌尿器科は性機能、男性不妊症、男性更年期なども含めた幅広い分野を担当しています。希望に応じたサブスペシャリティーを更に深めていくことを推奨しています。

いかがでしたでしょうか。これらは多様なケースの中の一部に過ぎません。

泌尿器科はマイナー科でありながらカバーする分野は尿路、男性生殖器官疾患をはじめ、腎不全（腎移植を含めた腎代替療法）、小児泌尿器、排尿機能、男性不妊、性機能など多岐に渡ります。実際に泌尿器癌は増加傾向にあり、特に男性における部位別のがん罹患数で前立腺癌は2015年に第1位になったと推定されています。また糖尿病罹患者の増加により血液透析を主とする腎代替療法を必要とする患者さんは増加傾向にあります。更に人口の高齢化に伴い、疾患の特性上、泌尿器科医のニーズは高まっていく一方です。治療法についても免疫チェックポイント阻害薬などの新規薬剤、ロボット支援手術を含めた腹腔鏡手術の発展を今後は皆さんが担うことになり、やりがいのある環境が待っています。群馬大学泌尿器科はこれらの仕事を行なっていく上で、活気ある雰囲気の良い環境と自負しております。今後、皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしています。



群馬大学大学院医学系研究科



泌尿器科学





【埼玉】埼玉医科大学泌尿器科

1. 診療科の特色

泌尿器科は主に腎・副腎・腎盂・尿管・膀胱・前立腺・精巣など尿路及び男性生殖器を専門に扱う部門である。疾患としては、水腎症を代表とする尿路閉塞、感染症、尿路結石、腫瘍、排尿障害、女性泌尿器科、外傷、腎不全があり、幅広い領域に対応している。診断から治療まで一貫して「患者さんと向き合える。」ことが泌尿器科の魅力である。基本的には手術を中心とした外科的な診断治療を行うが、周術期の全身管理に関する知識とともに、内分泌（副腎）や血液浄化など内科的な知識も要求される。当科では消化器外科のような消化管を扱う手術（尿路変向術）、尿管結石や前立腺肥大症に対するendourologyを駆使した内視鏡手術、先端技術を駆使した腹腔鏡下手術、血管外科の知識が必要な内シャント造設術を行っており、幅広い手術手技を学ぶことができる。

高齢化社会に伴って前立腺疾患を代表とする排尿障害が増加しており、泌尿器科診療技術は今後さらに重要性を増すと考えられる。泌尿器科的プライマリ・ケア（尿閉、肉眼的血尿、尿路結石などに対する初期治療）の対応能力を指導目標にしており、初期及び後期研修で是非選択していただきたい。また希望により埼玉医科大学国際医療センター泌尿器腫瘍科とも連携して研修を行うことができる。

2. 埼玉医科大学泌尿器科の特色

広く泌尿器疾患一般の診療および手術を行っている。一般外来に加えて排尿機能外来、前立腺精査外来などの専門外来を行っている。排尿機能外来では、排尿障害に対して尿流動態検査を行い、原因を解明、最適な治療方法を選択する。また子宮脱、膀胱瘤、腹圧性尿失禁の症例は平成24年に開設された女性骨盤底センターで婦人科、外科と合同で治療を行っている。

手術治療に関し、腎癌に対する体腔鏡（腹腔鏡、後腹膜鏡）下腎摘除術等の全身麻酔手術やTUR-Bt・TUR-P、TULなどの経尿道的手術等を週15～20件行っている。

腎腫瘍はほとんどの症例で腹腔鏡手術を行っている。小径腫瘍の場合、腹腔鏡下腎部分切除を行い、術中、腎臓の血流を遮断しないことで、手術時間を短縮するとともに腎機能の障害を最小限に抑えることができ、術後成績は良好である。副腎腫瘍も腹腔鏡手術を行うが、ホルモンの異常を伴うことが多く、その術前術後の管理は内分泌内科との協力関係が重要である。

前立腺肥大症に対して、一般的な経尿道的前立腺切除術を行っているが、Plasma-Kinetic(PK) systemを使用することで、従来よりも出血が少なく安全に行うことが可能である。

平成28年の手術実績から、当院では尿路結石の症例が多く、年間、経尿道的尿管結石破碎術(TUL) 80例、経皮的腎結石破碎術(PNL) 32例、体外衝撃波結石破碎術(ESWL) 60例であ

り、総合的な結石治療にあたっている。

内シャント造設術、CAPDカテーテル挿入術などの、透析関係手術は腎臓病センターとして腎臓内科と連携し行っている。

3. 研修中に経験できる手技

- 下部尿路への経尿道的内視鏡操作（男性の場合は全例直視下に内視鏡を膀胱へ進める。）
- 膀胱鏡下での腎盂、尿管へのカテーテル操作（逆行性腎盂造影、ダブルJステント挿入など）
- 内シャント手術助手、CAPDカテーテル挿入術助手
- 膀胱瘻造設
- 陰嚢内容手術
- 包茎手術（環状切除術）
- 膀胱瘻交換、腎瘻交換

4. 臨床研修プログラムの目的と特徴

泌尿器科専門医の養成を目的とし、初期臨床研修2年間を含めた5年間の臨床研修後の専修医4年目に日本泌尿器科学会認定の泌尿器科専門医認定試験を受験し、その資格を取得し得る研修を実施する。また専修医4年目にはチーフレジデントとして臨床泌尿器科医としての総仕上げをし、卒後7年目に泌尿器科専門医として独立できることを目標とする。具体的には日本泌尿器科学会専門医制度研修目的に準じたカリキュラムとする。すなわち泌尿器科領域の医療や福祉に関する社会のニーズに対応できること、医の倫理に基づく診療を適切に実施できること、他科との境界領域の疾患の処置についても正確に対応できること、科学的に検証できる態度や能力を養うことを目標とする。さらに医療の本質を認識し、患者の生活の質(QOL)への配慮、インフォームド・コンセント、また適正な情報公開についての対応能力も目標とする。

5. 取得可能な資格

日本泌尿器科学会専門医、日本透析医学会認定医、その他日本性機能学会、日本不妊学会、日本泌尿器内視鏡学会などの認定医

6. 連絡先

泌尿器科医局 tel:049-276-1243 (内線2210)
fax:049-295-8004

臨床研修指導医：

朝倉 博孝 教授 <hirotaka@saitama-med.ac.jp> (PHS9228)
矢内原 仁 教授 <yanaiha@saitama-med.ac.jp> (PHS9222)
中平 洋子 講師 <ynaka@saitama-med.ac.jp> (PHS9223)
坂本 博史 助教 <ma190096-5945@tbt.t-com.ne.jp> (PHS9260)

【愛知】大同病院 / だいでうクリニック



大同病院/だいでうクリニックは名古屋市南区に位置するベッド数404床の地域の中核病院で、診療科47科の総合病院です。中規模病院ながらICU 10床を備え、また一昨年、最新鋭の放射線治療装置 True Beamを配備し、高精度な照射が求められる定位放射線治療や強度変調放射線治療が可能な急性期医療に特化した病院です。小児医療にも力を入れており、NICU 3床、GCU 6床を備えています。その中で泌尿器科は平成5年1月に新設された比較的新しい科です。

常勤医師は、私(神谷)、藤井、田口の3名で全員が日本泌尿器科学会認定指導医です。全員で臨機応変に診療にあたっておりますが、藤井先生は臨床面ではウロギネコロジーと排尿、雑務としては、我々スタッフのスケジュール管理を担当しています。田口先生は結石治療と研修医指導を担当しています。各々が各々の分野で中心となって皆をけん引することにより小人数ながらバリエーションに富んだ治療が可能となっております。例えば、ウロギ



(上) ICU、(下) 放射線治療装置

ネコロジーはTVMを中心にこなっておりますが、症例に応じてLSCも可能となっております。結石分野では腎サンゴ状結石などを一期的に除去するECIRS (PNL+TUL)を積極的に取り組んでおり、ECIRSの昨年の手術件数は11件、完全排石率73%でした。

また、臨床研究にも

力を入れており田口先生は2016年7月から2017年7月まで、アメリカのカリフォルニア大学サンフランシスコ校の泌尿器科に当院職員として留学。エンドウロロジーのエキスパートであるDr. Marshall Stoller, MD (vice chair)とDr. Thomas Chi, MD (Associate Professor)に師事し、尿路結石診療に関する研鑽を積みました。帰国後の2017年にバンクーバーにて行われたWorld Congress of Endourologyでは、Research Abstract部門でベストポスター賞を受賞しました。

もとよりアットホームな病院の雰囲気があり、仕事以外でも職員の交流が盛んです。私自身、病院の自転車倶楽部に所属しており、昨年は研修医らとともに淡路島ロングライド2017に参加し、150km走破しました。

名古屋鉄道柴田駅から徒歩3分に位置し、名古屋駅、金山といった名古屋市の繁華街へのアクセスが非常によい立地です。面倒見のいい先輩の多い当院は、医師としての人間性を養うのに適しており(笑)、また、後期研修医として泌尿器科医になった暁には、自身の役割を明確に自覚し日々の業務にあたれることと思います。

皆さんに当科で活躍していただきたいと思います。

(文責 神谷)



腹腔鏡手術



左から、神谷医師、田口医師、Dr. Thomas Chi, MD、藤井医師。当院にて。

【東京】 帝京大学医学部泌尿器科



帝京大学医学部は、1970年代の新設医学部・医大ブームの先陣を切って1971年に開設されました。泌尿器科は男性不妊症診療の草分け的存在である故和久正良先生を初代主任教授に迎え、以来、首都圏北部の医療を支えつつ、先進的な医療の導入や、医学教育・研究に積極的に取り組んでいます。2017年4月に中川徹先生が東京大学より赴任し、四代目教授に就任しました。新教授の赴任を機に医局員は大幅に入れ替わり、若い医局の自由な雰囲気のもと、教室員一丸となり診療・教育・研究に日々邁進しています。

帝京大学泌尿器科の診療の特徴

私たちは泌尿器疾患全般を診療しつつ、なかでも①前立腺癌、腎細胞癌、膀胱癌（尿路上皮癌）、精巣腫瘍といった尿路系悪性腫瘍、②尿路結石や前立腺肥大症などの泌尿器良性疾患、③男性不妊症、性機能障害などのアンドロロジー部門、を3つの柱として、臨床・研究に注力しています。前立腺癌や腎細胞癌に対するDaVinci Xiを用いたロボット手術は当然積極的に実施しています。また、開腹手術も多く、下大静脈進展を伴う高度の局所進行腎癌に対する手術も心臓血管外科の協力を得て行っています。良性疾患では、尿管結石に対する経尿道的碎石術（TUL）の件数は急増しており、城北地区の結石センターとしての役割を担っています。これは当大学病院が救急医療に力を入れており結石性腎盂腎炎などの重症患者の搬送が増えていることとも関連しています。さらに難治性腎結石に対してはTULとPNL（経皮的腎碎石術）を組み合わせたTAP（TUL-assisted PNL）を導入しています。また、男性不妊などの生殖医療も積極的に扱っています。当科は生殖医療専門医が在籍しており、micro-TESEや精索静脈瘤に対する低位結紮術などのマイクロサージャリーを多数実施しています。



若い先生方に提供できること&習得して頂きたいこと

まず先生方が当科に入局されたとすると、数年先輩の医師が基本的な泌尿器科疾患の病棟管理について、また尿管ステント交換や前立腺生検などの初歩的な手技について教えてくれるでしょう。これらの手技に慣れて来た頃には、先生方もいろいろな手術に参加し、次のステップとしてTURBTやTUR-P・PVP、TULなどの経尿道的内視鏡手術に漠然とした興味が湧いてくるかも知れません。当科は症例数豊富ですから、入局数年でこれらの手技を多く経験するでしょう。その後は連携施設への出向も経て経験を積み、泌尿器科専門医を取得するのでは。将来的には、大学院に行くもよし、サブスペシャリティーを極めるために腹腔鏡手術やロボット手術の修練をする、透析治療、結石治療、男性不妊などに特化してみる、海外に思い切って打って出るなどそれぞれの思いに沿う形でサポートするつもりです。

研修プログラムについて

平成30年度より実施される新専門医制度では、泌尿器科専門医になるためには専門医機構の臨床研修プログラムに沿った形で研修を行う必要があります。帝京大学泌尿器科専門研修プログラムは都内を中心に16の連携施設がありますが、いずれも泌尿器科指導医が常勤し、日本泌尿器科学会の基幹教育施設となっています。興味のある方は是非私たちのホームページをご覧ください。

研修医としての生活は？

泌尿器科研修医は基本的に忙しいですが、スペシャリティーが高く、欧米などではレジデントプログラムの競争率の高い人気科として知られています。他の科から処置を依頼されることが多いことも端的にスペシャリティーの高さを物語っているでしょう。また、カンファレンスでは、入院・外来の問題症例、手術予定患者について夕方から数時間かけてじっくり討議します。一方、それ以外の曜日は、会議を含めて予定業務を極力時間内に終わらせるように努めています。教授以下医局員が全体に若く、医師間の風通しが良いため、週に何度も会議等をする必要はないと考えているからです。その分、各人が個別の課題に集中し、上司と相談して進めることができます。大学として研究活動も重要です。若い先生方は、まずは地方会で症例報告を行い、それを論文化しましょう。それがクリアできたらデータをまとめて原著論文の執筆を目指しましょう。当院は埼京線の十条駅徒歩10分の立地にあり、池袋まで6分、新宿まで11分、渋谷まで17分という距離です。大学の近くには十条商店街がありいつも夜遅くまで賑わっています。出身大学の偏り・学閥はありませんので、帝京大学卒業生も、他大学出身の方も大歓迎です。われわれと共にアクティブな泌尿器科医を目指しましょう。興味のある方はいつでも見学に来て下さい！お待ちしております（連絡先：uro@med.teikyo-u.ac.jp）。

（文責：講師 木村将貴）

【埼玉】 獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科



【新生 獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科 始動】

獨協医科大学越谷病院は、2017年11月から獨協医科大学埼玉医療センターに名称変更し、新しい病棟と手術室が使えるようになりました。今、まさに生まれ変わっている状態です。

獨協医科大学埼玉医療センターのある越谷市は埼玉県南東部に位置しており、東京には位置的に非常に近い地域です。最寄り駅であるJR武蔵野線 南越谷駅、東武スカイツリーライン線 新越谷駅より徒歩3分の距離に位置しており、東武線は日比谷線と半蔵門線に直通となっていますので東京都内でしたらほとんどの場所に1時間以内に行くことが可能です。また、羽田と成田の両空港へも1時間ほどでアクセス可能です。

当院の泌尿器科は、獨協医科大学の出身者もありますが、ほとんどのスタッフの出身大学がバラバラです。主任教授の岡田弘を中心として、それぞれのスタッフが、「自分たちのやっていきたい医療」を目指して、集まっている医局です。

当院は東埼玉で最大の泌尿器科の病院であり、埼玉県内だけでなく千葉県西北部、東京都足立区などカバーする人口は約200万人近くあり、非常に多くの症例が集まります。当院にて特徴的であるのは、一般的な泌尿器科診療（悪性腫瘍や排尿障害、結石）だけでなく、アンドロロジー（特に男性不妊症分野）・小児泌尿器科・腎移植に力を入れていることです。臨床のみならず、研究にも力を入れており、様々な学会から賞を受賞しています。当院の特徴を以下に概説します。

1) 全国トップクラスの男性不妊治療

当院で最も特徴的であるのは、アンドロロジー分野に力を入れていることです。特に注目されているのが男性不妊症の治療であり、泌尿器科よりプロダクションセンターに医師を外向させ、高度の男性不妊治療が可能となっています。埼玉県内だけでなく、都内や千葉県、神奈川県、群馬県より多くの男性不妊症患者が当院のリアプロダクションセンターを受診します。無精子症や精索静脈瘤に対する手術数は大学病院ではトップクラスです。婦人科や胚培養士との協力のもと、夫婦での治療が可能です。

2) 全ての前立腺癌の治療が可能

平成29年11月から稼働する新病棟の手術室には最新の手術支援ロボットである「タ・ヴィンチXi」が埼玉県で初めて導入されます。それ以外にも、前立腺小線源療法、IMRT等の放射線療法も可能となっており、全ての前立

腺癌の治療が可能となりました。手術室や病棟も新しくなったばかりであり、気分も一新しています。

3) 腎移植がスタート

移植のエキスパートである腎移植認定医が2名おり、腎移植も本格的にスタートします。

4) 内視鏡手術認定医が多数在籍

小児泌尿器担当医は内視鏡手術のエキスパートであり、例えば膀胱尿管逆流症に対する気膀胱手術という他院では施行が難しい手術も行なっています。また、泌尿器科内視鏡手術認定医が多数在籍しており、手術の指導体制が整っています。腹腔鏡手術の認定医になりたい人には優先的に手術を担当していただきます。

5) 先進的な研究

毎年、科学技術研究費やAMEDなどの研究費が採択されており、MRI画像を用いた排尿評価方法の確立や、スマートフォン精液検査の研究など、独創的な研究が評価され、国内外から多くの賞を受賞しています。海外の学会へも毎年発表しており、希望者には留学を斡旋いたします。

獨協医科大学埼玉医療センターの泌尿器科の特徴として、関連病院が少ないことがあります。研修期間中に、関連病院にて研修を積んでいただけますが、多くの時間を獨協医科大学埼玉医療センターの本院にて時間を過ごしていただくことになります。専門医になった後の進路もそれぞれであり、当院の医局に残るもの、開業するもの、医局を辞めて希望する病院へ勤務するものなど、希望に沿って相談にのることができます。各自、それぞれがなりたい「泌尿器科医」になれるようにサポートができる医局です。地域医療の中核を担うため、日々研鑽を積んでいます。





【北海道】 苫小牧市立病院

苫小牧市立病院は北海道道央の胆振地区にあるベッド数382床、23診療科を有する総合病院です。当科は現在北海道大学泌尿器科の関連病院として泌尿器科3名の医師体制（指導医2名、後期研修医1名）で診療を行っています。カバーしている診療地域は東胆振、日高地区全域で東西180kmと広範囲、人口圏も30万人弱おりますが、この地区には救急を行っている施設が他に1病院しかなく、救急患者が集まってきます。このため全科のgeneralな臨床が出来ることや地方都市なので病院事務や医療スタッフも医師に優しく接してくれることから研修医にも人気があるようです。現在14名の初期研修医がおり、毎年フルマッチ状態が続いています。

苫小牧市は新千歳空港からは車で30分、札幌からは車、JRとも1時間、フェリーも全国各地と繋がっており、陸海空の便がそろった地の利には非常に恵まれた街です。このためももとは王子製紙の城下町だったのですが、トヨタ、アイシン、出光といった大企業の工場や製油所もあります。このため、このご時勢なのに人口はほとんど減っておらず、2025年にはさらに10%増の患者ベッドが必要と報道されている北海道では札幌近郊以外で唯一患者増加が予想される地区です。病院は苫小牧市郊外（といっても駅から徒歩20分）の自然環境の良い場所に立地しており、病院周りには鹿が夜間頻回に出没し、情報交換会を行っているのではと皆で噂しております。国立公園に指定されている支笏湖も車で20分程度です。

泌尿器科手術としては悪性腫瘍関係の腹腔鏡や開腹手術はもちろん、尿路結石に対するレーザー手術も積極的に行っています。手術件数はこの5年間330-400件程度で推移。札幌に近いためによりロボット前立腺全摘患者様等は他院にお願いすることも多く、メジャー手術が少ないのが弱いところですが、ダヴィンチ導入で巻き返しを図るべく病院とは交渉中です。悪性疾患については化学療法、放射線治療もちろん自前で施行。集学的に治療しています。また透析も当科で管理しており、シャント作製、新規導入も含めた慢性透析の他に他科のCHDF、エンドキシン吸着等の管理も行っています。興味のある先生にはおもしろい分野かと思えます。なお透析までの保存



苫小牧市立病院泌尿器科の紹介

慢性腎臓病患者については泌尿器科疾患以外すべて内科管理で診療いただいております。

苫小牧市自体は札幌へ車で1時間と地理的にもそれ程悪くないのですが、実は現在日高地区に泌尿器科常勤医は一人もおらず、東胆振・日高地区の泌尿器患者は苫小牧に集まってきます。最近では高齢者の排尿障害や結石が原因のurosepsisも増加しており、診療する患者集めには苦労しません。昨年尿路結石や感染症はもとより腎外傷、尿道損傷、精巣捻転といった緊急を要する症例も多数来院されました。地域、救急医療も含めたある程度のall roundな泌尿器科臨床と手術は楽しめると思います。数年後に苫小牧中央インターチェンジができることが決まっており、開通すれば高速道路をおいて数分で病院に到着となります。現段階では大きな手術は少ないが、症例は多岐に渡るので、時間をかけて自分で考えながら診察して治療をしていくことがご希望の先生には向いている病院かと思えます。よろしければ諸先生方一度希望してきて下さい。



研修医との集合写真：○は泌尿器科スタッフ



イメージキャラクタートマチョップが持っている病院のワッペンは研修医が考えたものです。聴診器がかわいいでしょう？



【愛知】豊田厚生病院 泌尿器科

豊田厚生病院 泌尿器科から

泌尿器科に興味のある若い諸君へ

『一に興味、二にやる気、三・四は体力、五に知識!』

今、出来ん坊でも一〜四があれば君は立派な泌尿器医になれます。手取り足取りはしないが、五については責任をもって熱く指導していますと言う我々

【当科の紹介】

昭和43年4月に名古屋市立大学泌尿器科学教室から代務による診療で「加茂病院」泌尿器科として始まりました。昭和46年5月に初代泌尿器科部長が1人赴任して本格的にスタート。その後定員も4名に増員され最多時には医師6名になり、現在の橋本良博部長で八代目です。

平成20年に現在の豊田市浄水町へ新築移転し「豊田厚生病院」と改名されました。外来も充実し診察室3部屋、処置室、内視鏡室、泌尿器透視室、ESWL室を併せ持ち、病棟の病床数は26床です。日々スタッフ一丸となって最良の医療を提供できるように心がけています。

【当科の実績】

平成28年度の泌尿器科外来患者数平均74名/日、入院患者数平均19名/日、平均在院日数7日です。

手術件数は年間308件で①腎腫瘍、腎盂・尿管腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺腫瘍、精巣腫瘍などの悪性腫瘍に対する手術(48.7%、内1/4は腹腔鏡手術)、②尿路結石症に対する体外衝撃波結石破碎術、内視鏡の手術(40.9%)、③前立腺肥大症に対する経尿道的レーザー前立腺核出術HoLEP(7.8%)、④水腎症、膀胱尿管逆流、停留精巣、陰囊水腫、真性包茎などの先天性疾患に対する手術(6.2%)など、一般泌尿器科のほとんどの手術

を行っています。

特に、上部尿路結石に対する経尿道的尿路結石破碎術(TUL)と経皮的腎結石破碎術(PNL)のハイブリッド手術(TAP)やHoLEPを得意とし、他院からの紹介も多いのが特徴です。

【病院の特徴】

感染症病床を含め606床を有し、医師157名(うち研修医27名)、38の診療科が稼働しています。

豊田市内の公的病院として、地域がん診療連携拠点病院であり、救命救急センターを有する基幹病院として急性期を主体とした診療を行っています。屋上にはヘリポートも装備し、ドクターヘリによる救急患者搬送の受け入れ病院として県下第2位の実績を残しています。

【当科で何が出来るか】

常勤医師4名とも指導医・専門医なので、外来・入院患者の診察、検査、手術も積極的かつレベルに適した研修が出来ます。

今後増加が予想される尿路性器癌には手術治療、非手術治療(化学療法、放射線療法)をup dateした研修が受けられます。

将来、泌尿器科専門医を目指すなら、名古屋市立大学泌尿器科専門研修プログラムに属し、当科は専門研修連携施設となります。

いずれの場合でも患者中心を基本に安全な医療、丁寧な説明、QOLの重視および先端医療の提供を基本姿勢として研修指導します。

【終わりに】

写真のメッセージがわかる人、是非来て!

(JA愛知厚生連 豊田厚生病院

副院長 岩瀬 豊)





【東京】虎の門病院泌尿器科

虎の門病院本院は国家公務員共済組合連合会 (KKR) の中核的医療施設として昭和33年 (1958年) に東京都港区虎ノ門に開院され、続いて昭和41年には分院が東急田園都市線の神奈川県川崎市梶ヶ谷に慢性疾患の治療を中心とした慢性疾患治療センターとして開設、現在は本院868床、分院300床、合計1168床の全国有数の総合病院です。霞ヶ関に隣接した場所にあるため、患者さんの30%は国家公務員やそのOBが占めていますが、広く国家公務員以外の方々にも開かれた病院となっています。虎の門病院泌尿器科は、本院が開院されたのと同時に開設され、59年間の歴史を有する日本でも最も古い泌尿器科のひとつです。初代泌尿器科部長は齋藤豊一、第2代横山正夫、第3代小松秀樹、現在は第4代岡根谷利一に引き継がれております。それぞれの時代時代で先進的な医療を行うのと同時に、早くから卒後研修にも力を注いでおり、伝統ある虎の門病院レジデント制度として数多くの優れた臨床医を世の中に送り出してきました。新専門医制度においても、“虎の門病院泌尿器科専門研修プログラム”として継承され、さらに優秀な泌尿器科専門医を育成すべく、過去の実績に安住することなく、よりよい研修の実現に向けて病院一丸となり着実な歩みを続けてまいります。

泌尿器科は、初診から検査・診断・手術・薬物療法・緩和療法と最後まで一人の患者さんの診療全てに関わることでできることが最大の魅力です。一方で専門分化した診療体制では泌尿器科医だけでは決して解決できない問題も多く抱えています。従って我々虎の門病院泌尿器科は一人の患者さんに関わる外科、内科、放射線科、緩和治療科など各専門診療科や看護師、薬剤師、技師、事務など他職種と協調し、合同でのチーム医療を通して、より集中的で高水準の治療を実施することを目標としています。

当科は高度先進医療を担う病院でありながら、良性悪性を問わず、幅広い疾患に対応できる診療体制を整えています。尿路結石では、安全かつ確実に砕石から抽石が可能な、軟性尿管鏡とホルミウムレーザーを組み合わせた経尿道的結石砕石術 (f-TUL) を導入しております。また、前立腺肥大症では、出血が少なく、再発の可能性の低い、経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP) を導入しております。また、当院は地域がん診療連携拠点病院であり、都内泌尿器科の中でも悪性腫瘍や希少がんが特に多く集まっており、最も得意としている分野です。特に伝統的に局所進行癌に対する拡大手術 (下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎がん、巨大後腹膜肉腫など) は、必要に応じて複数外科合同にて積極的に実施しております。さらに、拡大手術や転移巣切除に加えて、薬物療法や放射線治療を併用駆使する集学的がん治療 (精巣腫瘍) にも特に力を入れております。また、我々は日本泌尿器内視鏡学会の技術認定医3名を有しており、副腎、腎臓や腎盂尿管の腫瘍に対する、安全で低侵襲な鏡視下手術を心がけており、腎がんに対する鏡視下腎部分切除や腎盂尿管移行部閉塞症 (UPJO) に対する鏡視下腎盂形成術にも積極的に取り組んでいます。また、膀胱がんに対する膀胱全摘除術に伴う小腸を用いた代用膀胱 (回腸新膀胱) 造設術は、当科では多数の実績を有する得意とする

手術の一つです。臨床腫瘍科 (腫瘍内科)、病理診断科や放射線科とは毎週合同カンファランスを行って治療方針を合議していますが、専門家がそろっている大規模病院のメリットを生かした診療体制であろうと思います。

虎の門病院泌尿器科専門研修プログラムは、虎の門病院を研修基幹施設に国立がん研究センター中央病院を加えた都市型診療拠点病院と地域医療を担う地方中核病院の2群から構成されています。地域中核病院である東京都東部 (江戸川病院)、埼玉県東部 (三愛会病院)、長野県長野 (長野市民病院 (地域医療支援病院)) の専門研修施設群のほか、後述の東京都区中央、千葉県東葛南部、長野県長野市の研修協力施設と連携し泌尿器科の研修をすることで、泌尿器科の幅広い研修に対応しています。また、サブスペシャルティ領域の研修では、がん診療連携拠点病院である虎の門病院、国立がん研究センター中央病院および長野市民病院で、泌尿器科の中心的医療である悪性疾患に対する腹腔鏡手術、ロボット支援手術を含むがん治療の研修を十分に経験できます。それに加えて小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能です。また、地方泌尿器科診療所において地域医療・一般泌尿器科診療を研修し、周辺の医療施設との病診連携の実際を経験することができます。さらに、虎の門病院の敷地内にある公益財団法人沖中記念成人病研究所と密接な協力関係を保ちながら、助成を受けながら臨床研究及び基礎研究を行うことができ、成果を国際学会で発表し、英文誌に投稿することを目標に指導する体制が整っております。また、当院は3つの大学の泌尿器科専門研修プログラムの連携施設の1つであり、専門研修後に大学院への進学や専門分野の研究・研修も可能です。これらの研修を通じて地域医療と専門医療、臨床と研究の両面、そして専攻医の研修後の選択肢も配慮することで、バランスのよい優れた泌尿器科専門医を育成することを特色としています。

最後に、虎の門病院 (本院) の建替えを含めた「虎ノ門二丁目地区再開発計画」が東京都により都市計画決定され、新病院2019年竣工に向けて建設が進んでいます。現在は、地上13階建てですが、新病院では830床地上19階建ての超高層大病院となり、“国際化”を目標の一つとして掲げ2020年の東京オリンピックでは“オリンピック病院”として指定されています。東京都心ど真ん中の伝統ある虎の門病院で、泌尿器科医としてのキャリアパスをスタートさせてみませんか? (文責 医長 浦上慎司)



虎の門病院 泌尿器科



虎の門病院 (本院) 新病院 外観イメージ

【愛知】名古屋市立西部医療センター 泌尿器科



名古屋市立西部医療センターは名古屋の北に位置し、2011年に市民病院である城西病院と城北病院が合併し現在の名古屋市北区に設立されました。真新しい450床の病院です。名前からわかるようにほぼすべての診療科が名古屋市立大学の教室から赴任している形となっております。それに加えて、時代に遅れないように今後は名古屋市立大学病院、西部医療センター、東部医療センターの3病院が今まで以上に強い連携を組んで診療にあたっていく予定です。その手はじめとして、筆者も2017年4月から名古屋市立大学 腎・泌尿器科学分野の所属でいながら西部医療センターの診療科部長として赴任しております。制度がややこしいですが、専攻医の皆さんには希望に応じて3病院の見学や診療、ときにはヘルプに行くといった形で研修が可能になります。この3病院の泌尿器科診療はそれぞれ特徴をもちその施設でしか行っていない治療、手術があります。泌尿器科の専攻医を目指すに当たってはまさに好都合で様々な泌尿器科疾患を経験することができます。西部医療センター泌尿器科としての診療の特徴をあげてみます。内視鏡手術、腹腔鏡手術、結石治療(内視鏡および体外衝撃波)といったどの病院でも経験できる手術はもちろん行っております。それに加えて、男性不妊症関連の手術治療

を現在は毎週行っていることが特徴としてあげられます。精巣内精子採取術、顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術といった男性不妊症治療はまさに希少価値で、研修指定病院としては市内において唯一といってもいいと思われます。これも愛知県の4大学の泌尿器科としては名古屋市立大学のみでしか行っていない治療であるために実現できております。

また西部医療センターのいくつかある特徴の一つとしては、名古屋市内で一番出産件数が多い病院であります。このため小児泌尿器科分野の疾患(停留精巣、水腎症、膀胱尿管逆流、尿道下裂など)の紹介も多く経験することができます。2017年4月から新設した名古屋市立大学 小児泌尿器科分野と連携して診察にあっております。さらに愛知県唯一の放射線治療として陽子線センターも併設されており、前立腺がん患者の紹介も多く受けております。患者さん毎に手術か、放射線治療かをしっかりと相談の上、治療選択ができるため最新の前立腺がん治療を経験していくことができます。

現在常勤、非常勤含め4名で診療にあっております。連日手術、検査に忙しい毎日ですが、イベントごとに飲み会も行っておりますので是非泌尿器科専攻医を目指す先生は連絡お待ちしております。

(文責：梅本幸裕)

連絡先：梅本幸裕宛 uro-ume@med.nagoya-cu.ac.jp



【愛知】名古屋市立大学 腎・泌尿器科学分野



名古屋市立大学 腎・泌尿器科学分野

～「凌雲之志」を胸に抱いて～



名古屋市立大学 腎・泌尿器科学分野は、昭和28年(1953年)に開講されました。初代 岡直友教授、第二代 大田黒和生教授、第三代 郡健二郎教授の後任として、平成27年(2015年)安井孝周教授が就任し、現在に至ります。名古屋市立大学病院(病床数808床)は、名古屋市内の中心部に位置する中核医療機関であり、地下鉄桜山駅から徒歩1分と交通アクセスの非常に良い大学病院です。当院では、ロボット(ダ・ヴィンチ)支援下手術や腹腔鏡・内視鏡手術を積極的に行っており、患者さんにとって低侵襲で負担の少ない治療をめざしています。また以前より小児先天異常に対する治療・研究を積極的に展開しており、平成29年(2017年)4月には小児泌尿器科分野が新設され、林祐太郎先生が初代教授に就任しました。名古屋市立大学病院では、先進医療についても積極的に取り組んでいます。現在、膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術(2012年10月承認)、MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法(2017年6月承認)を実施しています。このような先進医療に取り組む一方で、基礎研究にも力を入れています。当教室には、腫瘍・尿路結石・小児先天異常・排尿障害・

不妊を研究テーマとした5つの研究グループがあります。教室には先代教授の郡健二郎先生が揮毫した額「凌雲之志」が掲げられています。大きな大志を抱くことをモットーとして、日々研究に取り組んでいます。今では多くの若手医師が国内外の学会に参加し、その研究成果を発表しています。

名古屋市立大学泌尿器科専門研修プログラムは、名古屋市立大学病院を基幹施設として、都会あるいは地方拠点病院からなる15連携施設から構成されています。このほとんどが名古屋市内を中心に愛知県内にあります。この研修施設群において、ロボット(ダ・ヴィンチ)支援下手術や腹腔鏡手術などの低侵襲手術、泌尿器腫瘍、尿路結石症、小児泌尿器科、女性泌尿器科、排尿障害、生殖医療などの領域を専門的に研修することができます。泌尿器科専攻医には、泌尿器科専門医、各専門領域での資格を取得できる体制を整えています。そして、泌尿器科専攻医皆さんのキャリアプランを全力で支援していきます。まだまだ全国的にみても泌尿器科医は圧倒的に不足しています。私たちは、男女を問わず、泌尿器科医を志す若き先生たちを「一人前の」泌尿器科医に育て、さらに専門分野で「第一人者」として活躍していただくという使命感をもって人材育成に努めたいと考えています。当教室に少しでも関心をもたれた医学生、初期研修医の皆さんには、ぜひ一度病院見学に来ていただければと思います。

(名古屋市立大学医局長 安藤亮介)





【山形】山形県立中央病院泌尿器科

骨盤外科としてのプロフェッショナルになる

山形県立中央病院泌尿器科の紹介をします。

まず、当院は総合周産期母子医療センター、救命救急センター、がん生活習慣病センターを兼ねており緩和病棟など県を中心とする病院で症例数豊富です。東北地方では屈指の研修人気病院で小児からお年寄りまで、急性期治療から緩和治療までと、都会にはない地方ならではの幅の広い研修が可能です。

泌尿器科も中心となる癌治療以外に結石、尿路感染の救急治療、小児泌尿器科疾患など多岐に渡っています。また、当院の特徴として副腎の内分泌内科が充実しておりラパロの副腎摘除術も東北で屈指の症例数となっています。泌尿器科のスタッフは現在5人でほとんどが専門医前後の若い先生たちです(写真1)。



写真1

前立腺全摘術、膀胱全摘術、ラパロ副腎、腎手術などの全身麻酔手術年間250例前後、腰椎麻酔、体外衝撃波結石破碎術300例前後をほとんど

この若い先生たちで完遂しています。当科の特徴を3つ述べてみます。ロボット手術全盛の時代ですが、当院では小切開内視鏡補下開放手術を行っています。むしろ当院ではそのメリットをいかした特徴が3点あります。

1) 徹底した若手開放手術教育

前立腺全摘術をロボットにて行うようになり開放手術を教育できる施設は少なくなってきています。当院では勉強会、エキスパートによる講演、詳細な術式の解剖学的な分析による独自の教育法を行っており数例のラーニングカーブでメジャー手術がマスターできる体制ができています。初期研修医の先生も多く泌尿器科を選択してくれますが特に外科希望で泌尿器科を選択する先生も増えていきます。

2) 骨盤外科とのコラボレート手術

当院では消化器癌尿路浸潤、尿路癌消化器浸潤手術も数多く行われております。尿路再建には特にこだわっており、尿管膀胱吻合の再建手術や骨盤内臓全摘に積極的に取り組んでおり特に骨盤内臓全摘おけるストーマなしの尿路糞路再建など、患者さんにベスト

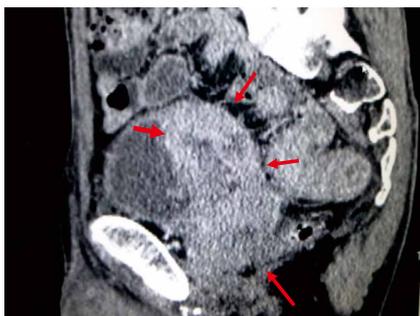


写真2

と考えられるあらゆる可能性に挑んでいます。写真は直腸癌の膀胱浸潤例で摘出後、糞路再建、新膀胱造設しました。現在、再発無くストーマは有りません(写真2)。一般に外科もラパロの時代になって開放手術が減っています。しかし当院では外科も拡大手術に積極的に取り組み良好な成績を出しており、診療科間の協力体制のもと手術適応、紹介患者がむしろ増えています。写真は、



写真3

若手術者による前立腺を5例摘出した後の記念撮影です(写真3)。体育会系のノリで楽しく

厳しく仕事をしています。

3) ERAS(Enhanced Recovery After Surgery)の実践

きちんと一つ一つ手術前後の介入方法を検証し、エビデンスに基づいた周術期管理を行うことで患者さんの回復をより高めることが可能となります。その周術期パッケージをERASといいます。当科のほとんどのメジャー手術に

おいて看護師、リハビリなどとのパートナーシップのもとERASが取り入れられており、術前腸管処置点滴不要で手術当日夕には歩行食事開始しています。基本的に一泊2日の手術が可能であり、従来は手術適応が無理であったご高齢で認知症があり長期入院できない患者さんなどでも積極的な手術治療が可能となりました。写真は、前立腺全摘術当日の夕にリハ



写真4

ビリスタッフのサポート下、歩行している患者さんです(写真4)。

泌尿器科の領域は、癌治療だけでなく、尿路結石、尿路感染、小児や婦人科領域、また、抗がん剤、分子標的薬、免疫治療などの薬物治療など幅広い分野にまたがっています。それぞれ、これらすべてが発展途上であり可能性に満ちています。「今」が一番すばらしい時代です。ぜひ一緒に泌尿器科医として働きましょう。

山形県立中央病院泌尿器科 沼畑 健司

【山梨】山梨県立中央病院



泌尿器科医をめざす若き皆様、ようこそ山梨へ!山梨県は山国ではありますが、晴天率が高く、住みやすい地域です。毎日、霊峰富士を目にし、ふりかえれば鳳凰・白峰・荒川・赤石と続く南アルプスの山々と谷筋…。このように自然に恵まれた地域は他にはあまりないことでしょう。

山梨県立中央病院は、明治九年に開院され、百四十年以上の長きにわたり県民の健康をささえ、その期待に応えてきました。平成二十二年、小俣政男元東京大学教授を理事長に迎え、地方独立行政法人に移行、さらに発展してきました。ドクターヘリやドクターカーが行きかう救急救命センター、総合産産期母子医療センター、通院化療がんセンター、ゲノム解析センターなど様々なセンター機能を整備し、現在は三十九名の初期研修医、三十一名の専修医(後期研修医)を抱える大病院となりました。平成二十八年にはダ・ヴィンチ Xiを導入しました。

泌尿器科の歴史も古く、昭和三十五年信州大学より常勤医師が派遣されたのが始まりです。現在は信州大学卒の三十代から六十代までの医師四名で仕事をしています。当科は信州泌尿器研修プログラムと山梨泌尿器研修プログラムの連携施設となっており、若手医師はどちらかに所属して、当院で研修してもらうということになります。

当院の性格上、泌尿器科も多数の手術症例があり、研修をおこなうにはうってつけの環境といえます。長年、若い先生方に泌尿器科の一般的技術を身に付けてもらってきたと自負しております。最近、横山仁泌尿器科部長の指導のもと、若手医師が鏡視下手術やRALPの腕をめきめき上げていくのを、うれしく見守ってきました。

当院の小俣理事長は世界的な肝炎治療の権威ですが、「泌尿器科はメジャーだよ」「早くきれいに治そう」が口ぐせです。研究もおおいに奨励され、研修医や専修医の発表会やMSGRがたびたび開催されます。ゲノム研究も盛んで、泌尿器がんパネルも作成しました。腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌について次世代シーケンサーを用いて解析し、臨床経過と照合する研究が進行

中です。まさに「来たれ!若き頭脳と体力よ!」です。

私たちの普段の生活は、火・木曜に全身麻酔の手術、金曜に腰椎麻酔の手術、その他の時間はそれぞれ、病棟回診、外来診療、ESWLやX線透視下処置などに散らばり、寸暇を惜しんで働くという状況です。手術の時は、横山部長の「おい!」「なんだ!」「替われ!」という怒声がとびます。けれども、その夜は部長みずから東京でみんなに買って来た金(色)のお匙で高級アイスを賞味しながら、手術の反省や四方山話をします。深夜になると、救急医から「泌尿器オンコールの先生、お願いします。睾丸痛の患者さんがきて…」となり、緊急手術を…なんて日々です。週末は四人で当番制にしている、当番でない者は、それぞれ勉強や婚活や妊活や終活にいそしみます。

風光明媚で、日帰り温泉もいたるところにあり…このような地で泌尿器科医をめざしませんか? (副院長 保坂恭子)



地方独立行政法人山梨県立病院機構
山梨県立中央病院
YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL



研究の魅力を語る小俣理事長